

2013年7月22日

日本国 内閣総理大臣 安倍晋三様

まず、私たちの自己紹介をさせていただきます。私たちは、肥沃な大地と豊かな漁業水域に恵まれた中央ジャワ州バタン県ロバンの沿岸域の村 (Ujungnegoro) に住む何万もの住人を代表する者です。Karanggeneng, Ponowareng, Ujungnegoro, Wonokerso, Roban という5つの村にいる何万人という人々を代表してこの手紙を書かせていただいています。

この二年間で、私たちの平和で穏やかで豊かな暮らしは恐怖と不安へと変わってしまいました。村における大規模石炭火力発電所開発プロジェクトの脅威が原因です。

この事業では、日本企業である電源開発株式会社と伊藤忠商事株式会社の二社がインドネシアの会社とともにビマセナ・パワー・インドネシアという合弁会社を設立し、バタン石炭火力発電所の建設を進めています。この合弁会社は私たちにとって恐怖の源であり、村の平和な生活を掻き乱しています。

日本企業二社は、村におけるバタン石炭火力発電所建設のために人権侵害など数々の害ある行為を行ってきました。二社は住民を脅し、コミュニティーの指導者たちを犯罪者扱いし、ジャスミン庭園を破壊し、私たちの暮らしに必要な土地を奪いました。

私たちは、日本の人々と同じように、恐怖と脅威なき自由な暮らしを求めています。ですから、村に石炭火力発電所が建設されることには反対です。そして、私たちは、私たちの生活を破壊するこの動きに反対し、唯一の収入源である土地を奪おうとする全て行為と徹底的に戦います。

住民の安全とクリーンで健康的な環境を引き継ぐことは、私たちの権利です。ですから、環境を汚し、生活を壊し、子供の健康を害する石炭火力発電所の開発には抵抗します。

この石炭火力発電所の建設計画によって恐怖と不安を抱えている何万人というバタン州住民のために、首相のご判断によって、このプロジェクトの実施を停止し、またこのプロジェクトに対して電源開発と伊藤忠を通じて行っている日本からの投資をやめていただくよう、要請いたします。

バタンの人々を代表して、

M. Ali Tafrihan, Karnyoto, Casnoto, Riyono, Cahyadi

(仮訳：気候ネットワーク)